

ネオ昭和 からむし通信

〒949-8522 新潟県十日町市伊達甲 236 TEL (025) 750-2857 FAX (025) 750-2858
http://www.karamushi.jp/ E-mail cfy49400@nyc.odn.ne.jp 発行人/村山好明

第2号〈歴史編〉
発行/2008年7月1日

最古の越後産麻布

越後の麻織物が、いつ頃から始まったのか、明らかではないが、現存している最古のものは、奈良の正倉院に所蔵されている麻布である。



新潟県草月流第一グループのみなさんによるからむしを使った生け花

納物である庸として貢納した旨の墨書銘が残っている。

ここに書かれてある久足郡は、現在の頸城郡で、夷守郷は“ヒナモリ”と読み、旧美守村、現在の中頸

皇が亡くなられたとき、光明皇后が天皇の遺愛の品々を東大寺へ寄進され、それを保存するための校倉式の建物である。

昭和二十八年、正倉院の調査に当たっておられた大賀一郎博士によつて、未整理の所蔵品の中から墨書銘文のある越後布が発見された。

天平勝宝五年（七五三）三月二十九日に東大寺でおこなわれた仁王会に使った屏風を入れる袋の裏地で、生地はカラムシ（苧麻）で織った麻布である。今から千二百五十五年以上の製品であつて、幸いなことに、越後国久足郡夷守郷の戸主・肥人皆麻呂という者が、労働負担の代

城郡三和村である。貢納者の肥人皆麻呂は“ヒノヒトノアザマロ”か“ゴマヒトノアザマロ”と読むことができる。

もし“ゴマヒト”と読むならば“肥人”は“高麗人”で朝鮮半島からの帰化人か、その子孫であることも考えられる。

日本の織物の歴史にとつて、五世紀から六世紀は大きな変革の時期であつた。当時の中国や朝鮮半島をめぐる国際情勢の緊迫化にもなつて大陸からの帰化人の来住が一段と多くなり、帰化人たちのもたらした先進の織物技術によつて日本の織物も長足の進歩をとげた。

渡来者が土着したのは畿内だけでなく、地方の国府やその周辺にも移住して養蚕やハタ織りの技術を教えたといわれている。

当時の越後国の国府の所在地は異説があつてさだかでないが、古代には夷守村近く中頸城郡の山間地に越後国府があつたという説も有力なので、この地方が大陸渡来の技術者によつて織物の技術革新がおこなわれていた可能性も少なくない。

伊乎乃郡と波多岐庄

越後布というのは、古代から中世にかけて越後国で生産された麻織物のことで、越布とか越白、白布などとも呼ばれ、室町時代以降になると“ゑちご”といつただけで越後布をさすほど

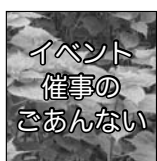
有名になつた。

越後布の素材は、カラムシ（苧麻）の靱皮繊維を糸に績いだアオソ（青苧）を織りあげたもので正倉院所蔵の墨書銘のある越後布も麻布である。

越後布といつても、この麻布は越後国一円から生産されていたわけではない。主産地は魚沼や頸城地方の雪深い山間地帯に限られていた。

「越後風俗志」には、苧麻は、古老の言に、上古、黒姫山におこり、頸城、魚沼、中郡蒲原の山あたりに皆産す。なかんずく妻あり、さばし谷をもつて名産とせり”と書かれ、妻有地方と鯖石谷（柏崎市の鯖石川中流域）などが生産の中心地であつたと伝えられている。

魚沼や頸城地方が越後布生産の中心になつたのは、この地方の気候風土がカラムシ（苧麻）の生育に好適な条件を備えてい



7月5日～6日

大阪高島屋 大岡園 (大阪市都島区)

7月16日～18日

(有)ネオ昭和展示会

日本橋にいがた館 NICO プラザ # 2

7月31日 PM 6:30 開演

長岡市リリックホール

能楽観世流「兼統」が開催されます。会場からむし製品の販売致します。

8月中旬～下旬

(日程未定 2週間の予定)

立川伊勢丹店内

9月 (日程未定 2週間の予定)

(株)大和新潟店

皆様のお越しを
お待ちしております。

たからである。

カラムシは、広く山野に自生していたので、はじめは野生のものを採取して使っていたが、越後布の声価が高まり需要が増大すると、野生のものだけではまかないきれないことと、高級化への要望にこたえ、糸質の向上を図るために、肥沃な上畑に植えて肥培管理を行うようになった。

カラムシという植物は、生育期にかなりの雨量を必要とし、湿度が高く、強風が少ないところのものがすぐれ、温暖地よりも寒冷地を好むので、魚沼地方はその適地であり、ここで生産された越後のカラムシは、近世にいたり東北地方のものが出廻るまでは、越後の代表的な産物として量的にも質的にも高く評価されていた。

市内に、麻畑、浅(麻)ノ平、東頸城郡松代町の芋ノ島などの地名が残っているのは、カラムシを栽培した名残であろう。

青芋座と上杉氏

越後布は、越後の代表的な特産品として知られているが、それよりも素材の青芋という糸のほうに、各地の織物の原料として京都や大阪方面に出荷され、

莫大な産額をあげていた。

この青芋の集荷から輸送、販売までの流通面は、青芋座とよばれる組織によって一手に独占されていた。座というのは、工業者や運輸業者の特権的な同業者団体で、朝廷や貴族、寺社などを本所(座の支配者)にたいて座役(税金)を支払う代りに、その権威によって販売の独占権や課税免除権などの特権を保証された排他的な組織である。越後の青芋座は公家の三条西家が本所で、その支配のもとに、地元越後においては府中(直江津)に本座があり、本座に所属する商人(本座衆)によって売買が独占されていた。

魚沼地方の青芋は、信濃川と魚野川の舟便で小千谷に集荷され、そこから馬に積んで柏崎か直江津へ出た。ここから専用の「芋船」によって越前の敦賀か小浜に陸揚げされ、陸路琵琶湖へ出て再び舟で大津へ運び、京都をへて大阪の天王寺の青芋商人の手へ渡ったといわれている。

しかし、応仁の乱や越後の永正の乱などで青芋役の納入がどこおりに、青芋座の実権は三条西家からしだいに守護代の長尾氏の手に移った。とくに上杉謙信、景勝の二代

にわたって財政力強化のために積極的な殖産興業政策がとられ、青芋と越後布に手厚い保護と奨励が加えられ上杉家の重要な財源になった。

なかでも景勝の家老、直江兼続は上田衆の出身で、のちに百姓大名と呼ばれたが、郷里の魚沼地方で生産されている青芋に着目して、品質を向上させるために上畑にカラムシを栽培することを奨励することによって、青芋と越後布の面目を一新させたといわれている。

兼続が米沢藩時代に著わしたといわれる「四季農戒書」に正月 家主娘女房は糸をとり、芋(青芋)をひねり、男子どもの着類を稼ぐべし

二月 朝夕鋤鎌をもってから

むしのなえを取植しむべし……

三月 麻畑をうない、残なく打うなうべし

四月 からむし畑へ近辺の山々より萱をきりかけ、家近くならば風をうかがい焼べし

七月 からむしを取るべきなり……からむしは田に出来る米にはまさりたり……

この文面からも兼続のカラムシにかけた情熱のほどがしのばれるし、その収入は米よりも多かったのでカラムシの奨励に力を入れたのであろう。

(十日町織物工業協同組合 昭和60年発行「きもの歩み 50周年」より)



● 当社和芋(からむし) 製品取扱店 ●

- 和らぎ体操研究会 さいたま市北区宮原町 4-37 ☎ 048-653-4056
- ねむりのアトリエ 洛彩 東京都港区北青山 3-13-8 ☎ 03-5778-4824
- (財)十日町地域地場産業振興センター (クロス 10) ☎ 025-757-2323
- 大杉屋 (和菓子・和雑貨の店) 上越市本町 3 ☎ 025-525-2501
- 岩室温泉富士屋 新潟市岩室温泉 ☎ 0256-82-4151
- レストラン cafe de kenshin 上越市民プラザ 1 階 ☎ 025-522-4300
- TRUE TO NATURE (美容院・岩盤浴) 南魚沼市六日町 ☎ 025-773-3963
- ビジネスライクサポート (印刷会社) 南魚沼市竹俣 ☎ 025-782-6560
- 大橋土百・美恵子 (からむし街道・農家) 柏崎市高柳町石黒 ☎ 025-741-2162
- (株)ふじうし 五泉市村松甲 2142 ☎ 0250-58-6022

● からむし足袋取扱店 ●

- (株)皆中 東京都世田谷区 ☎ 03-3302-1899
- からむし紙 最高級日本酒ラベル 妙高酒造(株) 上越市南本町 2-7-47 ☎ 025-522-2111

● 当社ボディタオル、手ぬぐいの販売店 ●

- ・越後湯沢温泉 松泉閣 花月、滝の湯、ホテル双葉、高半 ナスパニューオータニ、白銀閣、東映ホテル
- ・南魚沼市六日町温泉 龍言、坂戸城、木の芽坂、龍気、魚野の里
- ・岩室温泉/ゆもとや
- ・長野県野沢温泉/さかや
- ・長野県松本市浅間温泉/玉之湯

教材として

- ・新潟市 国際トータルファッション専門学校
- ・上越市 富岡小学校

生け花

- ・新潟市 草月流第一グループ

多目的展開の実用化を図っています。

- ・糸 ・ワタ ・紙 ・お茶